

土壌診断・施肥設計システム NK-Psoil 機能説明会

平成 21 年 7 月 24 日

財団法人 北海道農業近代化技術研究センター 水・土診断室

当財団で、土壌診断・施肥設計システム (NK-Psoil) を開発し、平成 21 年 7 月 24 日に説明会を行いました。

説明会では、

- (1) システムの動作環境
- (2) システム導入前の整備事項
- (3) 機能説明(受付、分析、診断)
- (4) 土壌診断票・施肥設計票
- (5) 土壌採取位置 (GIS)
- (6) 土壌診断データから他システムへの展開

について行い、参加者との意見交換を行いました。

このシステムは、肥料価格高騰の中、適正な施肥設計を行い、肥料コストの低減が可能となるもので、適正・適量な施肥により、過剰肥料養分の流出による環境汚染を防止でき、環境保全に寄与できます。また、Yes Clean の関連からも、土壌養分に合致した適正な施肥は重要であり、有効なシステムです。

以下に、システムの特徴を示しましたので、ご確認ください。

【 システムの特徴 】

土壌分析機器と連動して、システムの中に自動的に分析データを取り込み、土壌診断表を作成するため、誤入力防止されるとともに、作業も効率的になる。

施肥設計基準は、「北海道施肥ガイド」のすべての基準に準拠している。

分析結果と基準より、3 パターンの中から選択して、自動的に施肥設計を行う。

- ・ 肥料バランスを考慮した施肥設計
- ・ 安価な肥料を使用した施肥設計
- ・ JA 推奨の肥料を使用した施肥設計

土壌診断データを位置システムと連動させ、土壌養分の平面分布を把握することが出来るため、地図上で土壌養分のかたよりやばらつきを把握する。

(例えば、リン酸吸収係数など、施肥指導にも有効となる。)